



曼茶羅って、何だろう？



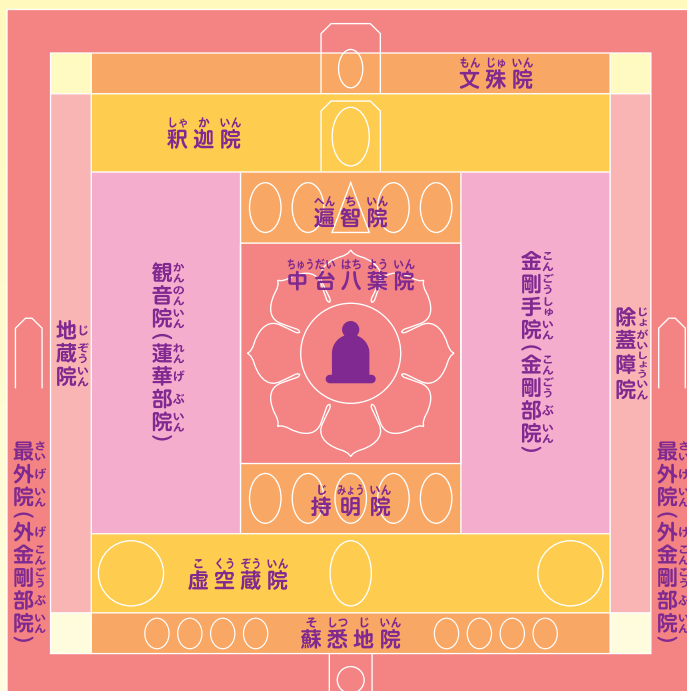
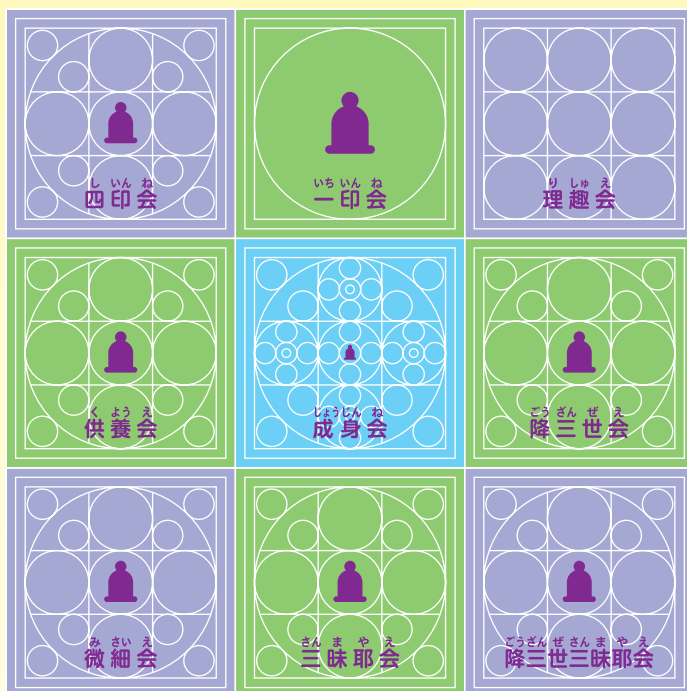
曼茶羅は仏教のことばで、「集まったもの」「満ち足りていること」「聖なる空間」などの意味があります。とくに仏教の美術では、たくさんの仏が規則正しく並んだ絵のことを、曼茶羅とよんでいます。曼茶羅は、複雑なお経の内容を絵にした、いわば「見るお経」です。真言密教を日本に広めた、弘法大師とも呼ばれる空海も、密教のおしえを絵によって理解することの大切さを述べています。曼茶羅にはいろいろな種類がありますが、胎蔵界曼茶羅と金剛界曼茶羅の2つの絵からなる「両界曼茶羅」は、その代表です。胎蔵界曼茶羅は『大日経』、金剛界曼茶羅は『金剛頂経』というお経を絵でしめたものです。もともと別々であった2つの曼茶羅が1つのセットとなり、空海はさらにその考えを発展させ、この2つの界(両界)が、大日如来という仏を中心とした密教の宇宙を表すと考えました。両界曼茶羅はお寺のお堂の壁にかけられ、その前で大事な儀式が行われました。



これが両界曼茶羅のしくみだ！



だい にち によらい
= 大日如来



◎金剛界曼茶羅

金剛とはダイヤモンドのことで、大日如来の知恵が、こわれることのない強いものであることを表しています。9つのグループに分けられていて、右上の「理趣会」以外すべて中心が大日如来。まわりをとりかこむ仏たちとの間では、大日如来の知恵が、内から外、外から内へと、コンピュータの回路のように、たえまなく動き続けているのです。□と○の組み合わせが特徴的です。

◎胎蔵界曼茶羅

大日如来を中心に、12のグループで構成されています。すべての仏は大日如来から生まれるのであり、それとおなじように、人々の心の中にある(胎蔵する)「さとり」を開く種を、大日如来が守り育てていくようすを表しています。金剛界曼茶羅では、大日如来の知恵が規則ただしく、縦横ななめに動いているのに対し、こちらでは太陽の光のように、やさしく力強く、中心から世界を照らしているのです。



必見! 展覧会ではほかにもすごい曼茶羅が



金剛界



胎蔵界



金剛界



胎蔵界



金剛界



胎蔵界

国宝 両界曼茶羅図 (高雄曼茶羅)

平安時代9世紀 京都・神護寺

空海が中国・唐より持ち帰った両界曼茶羅を手本として描いたもので、絵の部分だけでも、縦横4メートルをこえます。日本で作られた中ではもっとも古い両界曼茶羅です。

■展示期間 胎蔵界曼茶羅 …… 7月20日(水)～7月31日(日)
金剛界曼茶羅 …… 8月2日(火)～8月15日(月)

重要文化財 両界曼茶羅図 (血曼茶羅)

平安時代12世紀 和歌山・金剛峯寺

平清盛が描かせたといわれ、胎蔵界の中心の大日如来の冠は、清盛の血をまぜて絵の具をぬったとの言いつたえがあることから、「血曼茶羅」ともよばれています。この絵も大きさは4メートル!

■展示期間 金剛界曼茶羅 …… 8月16日(火)～9月4日(日)
胎蔵界曼茶羅 …… 9月6日(火)～9月25日(日)

重要文化財 板彫両界曼茶羅

中国・唐時代8世紀 和歌山・金剛峯寺

両界曼茶羅を板に彫りあらわした作品。縦が27センチほどと小さいのですが、曼茶羅の世界が、とても細かく彫刻されています。

■展示期間 7月20日(水)～9月25日(日)の全期間



空海って、どんな人？



弘法大師空海は宝亀5年(774)、現在の香川県善通寺市で生まれました。小さいころからいろいろな学問を勉強し、24歳のときに仏教の道にすすむことを決意します。延暦23年(804)には中国・唐にわたり、2年という短い間に、新しい仏教であった密教を学んで、日本に帰国しました。日本に戻ってから空海は、密教の教えをさらに発展させてゆき、その教えは「真言密教」として、多くの人々に受け入れられることとなったのです。密教の教えは奥が深く、絵や仏像などの「かたち」を使って理解することが重要でした。空海も密教とともに、両界曼茶羅などの絵や仏像・書物・道具などを持ち帰っています。日本に戻ってから各地に密教の道場をひらいて、かずかずの絵・仏像・道具を作らせ、書物を書きました。空海は今も、和歌山県の高野山金剛峯寺の奥の院で生き続け、人々を見守っていると信じられています。この展覧会では、そうした空海にかかわる美術と歴史を紹介しています。



重要文化財 弘法大師像 (部分)

鎌倉時代13世紀
東京・西新井大師總持寺

■展示期間 8月2日(火)～8月28日(日)